

吟の風景

酒米・山田錦80年

③ 村米の田植え

三木市吉川町は、良質の酒米産地として古くから知られる。明治中期以降、地区の米を特定の蔵元へ販売する契約栽培「村米制度」が確立した。

南豊岡地区は100年以上「櫻正宗(神戸市東灘区)」のみ酒米を納めてきた。同社は村米を同地区以外に求めず、結びつきは強い。十数年前、同社生産・企画本部長の原田徳英さん(63)が、明治時代の酵母や製法による酒造りをしようと地区に相談。「田を貸すから自ら米を作って」と提案された。製造部門の社員らが手植え、手刈り、天日干しを始め、今では毎年恒例行事となっている。

世紀を超えた結びつき

今年6月半ば、管理・営業部門などを含む社員20人が、苗を等間隔に植える目印が刻まれた木枠を使って田植えをした。原田さんは「米に対する社員の思いが強くなり、酒がより良くなった」と、手作業の効果を実感する。

白鷹(西宮市)は1893(明治26)年、市野瀬地区の米を採用。村米制度に関する最も古い記録の一つとして知られる。今も同地区と隣の楠原地区の米を高級酒に使う。

同社は日本酒愛好家向け講座の一環で、村米契約をしている地区で田植えを毎年行う。今回は楠原地区に

親子連れらが集まった。副社長の辰馬朱樹子さん(54)は「当時の蔵元が超一流の受けるとき、片付けの作業に向かった。『そいうつ』と今ほういった催しでもお世話になっていること話。係だ」と力を込めた。(田中靖浩)

大垣正さん(67)は、阪神・淡路大震災で同社が被害を受けたとき、片付けの作業に向かった。『そいうつ』と今ほういった催しでもお世話になっていること話。係だ」と力を込めた。(田中靖浩)



昔ながらの木枠を使っての田植え。慣れない作業に奮闘する櫻正宗の若手社員らを地元農家が後ろで見守る＝三木市吉川町豊岡

銘柄名ののぼりがはためく水田。村米を栽培する地域では多く見られる＝三木市吉川町楠原

【メモ】吉川町の村米地区 土質などの条件が山田錦栽培に特に適しているとされる吉川町は、全域が産地格付けの最高峰「特A-1a」に指定される。山田錦を作る全37地区が灘の8社、石川県の1社と村米契約を結んでいる。

次回は7月26日掲載予定です

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名前【 】

① 良質の酒米産地として古くから知られる三木市吉川町では、明治中期以降、地区の米を特定の蔵元へ販売する契約栽培を行ってきました。この制度を何と言いますか？

② この記事の主な見出しを一つ書きましょう。

③ この記事を読んだ感想を書きましょう。

NIEワークシート／小学校高学年／高校／社会、総合、朝NIE